

す。
「もう、卒業」なんて！今
になってみれば「あ！」と言
う間でした。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』
に、「こんなくだりがあります。
「ほんとうにどんなつらいこ
とでも、それがたまたしいみち
を進む中でできごとなら峠
の上りも下りもみんな、ほん
とうの幸福に近づく一あしづ
つですから」。

賢治の作品が
広く知られたのは、没後のこ
とです。生前は、ほぼ無名で
した。それでも筆を持ち続け
た賢治の自負が、先の文章に
凝縮されているようにも感じ
ます。

ここを読むと、雪晴れの朝、
一面の雪の上をみんな歩いて
いました。しばらく進んだ
ところで、ふと振り返ると、
真っ白な雪道に刻まれた自分
たちの足跡が光って見えまし
た。ふと思いました。「進む
道がどんなに大変だとして
も、生徒一人一人が、自分に
負けずに一歩一歩、精いっぱい
頑張って歩いてきた足跡で
はないか」と。そして、思い
出深い三年間を振り返り、三
年間を糧に「将来の夢に思い
を馳せます」。

3 学年担任



体育祭 騎馬戦



1組 飯塚先生 2組 川島先生 3組 島田先生 4組 田村先生 5組 川村先生

れなす幾多の星でも数えるこ
とは出来るが、親の教える事
は数えられないほど限りがな
い。各担任は、保護者の皆
さんと一緒に、まだまだ生徒
に教えることが沢山ありまし
た。保護者の皆さんと歩んだ
三年間が懐かしく思い起こさ
れます。最後に私たちが生徒
に願うのは、父母の恩、師の
恩、すべての恩を忘れない人
にと願います。

「うさぎとかめ」
から学ぶこと

学習指導部長 田村 佳一

童話「うさぎとかめ」で、
なぜ、うさぎは負けて、かめ
は勝ったのでしょうか。うさ
ぎは油断して、「こころで
ちよつとひと眠り」とさぼっ
てしまい、かめはこつこつと
歩み続けたから。というのが
一般的です。

元サッカー日本代表監督の
岡田武史氏は、この勝敗につ
いて次のように言っています。
「うさぎはさぼっていて
かめに負けたといいますが、
違うのです。うさぎはかめを
見ていたから、負けたのです。
対して、かめが見ていたのは、
『ゴール』でした。良い結果
を残す人はみんな高い志や夢
を持つているのです。」も
う一つ勝敗を分けたものがあ
ると思います。それは、『自
分の良いところを発揮できた
か』ということです。うさぎ
は結局足の速さを生かせませ
んでした。かめは、「世界の
うちにおまへほど、歩みのの
ろいものはない」と言われな
がらも、脇道にそれず、着実
にまっすぐ進むねばり強さを
発揮しました。

教育は、共に育つ「共育」
であるとも言われます。私た
ち教職員も学校生活の中で生

徒からたくさんのかめを教わ
ります。面談で将来の夢を聞
かせてもらったり、廊下で気
持ちの良い挨拶を交わした
り、掃除に一生懸命取り組む
姿を見て、清風生は素晴らしい
と感じます。また、部活動
や体育祭、マラソン大会、研
究発表会などの行事で、清風
生から多くの感動をもらいま
す。これからもそんな素晴ら
しい清風生が、こつこつ努力
を続け、ゴール・目標に向
かって、自分の良いところを
伸ばし、発揮できるように後
押ししていきたいと思いま
す。

事故を未然に
防ぐために

交通指導担当 深沢 寛是



今年度は本校生の事故が多
発し、ご心配をおかけしてお
ります。事故に遭わないよう
に注意して登校・下校するよ
うに声かけをしているのです
が、自転車の並進、スピード
の出し過ぎ、さらには飛び出
しなど、危険な運転が後を絶
ちません。自分自身と事故
に遭わないだろう、という根
拠のない自信があるのもし
れません。

事故は未然に防ぐという観
点がなにより重要です。事故
というものは取り返しがつか
ないものもあります。治らな
い大けがをしてしまったり、
ましてや死んでしまったりな
どということがあってはなり
ません。

また、事故に巻き込まれて
しまうということもあるかも
しれません。例えば、路地か
ら前方不注意な自動車が飛び
出してきて、自分の運転して
いる自転車につけられてしま
うかも知れません。その場
合、相手の不注意を責めるこ
とはできるかも知れませんが、
かたや、そのときに取り返し
のつかない事態になっていたら
どうでしょうか。「前方注意
なクルマが飛び出してくるか
も知れない」と思って、左右
確認してから路地を横切って
いけば、そんなことにはなら
なかったでしょう。

事故を未然に防ぐというこ
とは、自分で自分の身を守る
ということであり、「事故に
遭わないだろう」という確率
論ではないのです。だからこ
そ、普段から交通ルールを守
るよう指導していくことが重
要だと考えております。



進路指導主事
清水利夫

進路区分		男子	女子	計
進 学 者	四年制大学	44	18	62
	短期大学	1	12	13
	専門学校等	12	46	58
	進路未定者	1	2	3
	小計	58	78	136
就 職 者		16	42	58
自己就職		1	1	2
卒業予定者		75	121	196

の内定率も上昇しています。経済状況の好転が徐々に感じられるようになりました。職種は製造職がほとんどで事務職は相変わらず少ない状況です。(就職希望者の三割) 十月末内定はほぼ100%達成。今後とも買手市場が続く気配が濃厚です。

学校で就職希望者に周知させることは、職業・仕事の考え方です。誰もが、子供の頃から抱いていた夢とはなく、むしろ目の前に与えられる仕事にひたむきにやり組んでいううちに、思いがけない出会いやチャンス、心揺さぶられる出来事に巡り合い、これぞ天職という生き甲斐を見つけていくというケースが多いと思います。十七歳で自分に合った職業を明確に伝える高校生は希です。適職かどうかはやってみないと判断できないということですね。社会人の最も身近な保護者からも、職業観を伝えてください。

今年富士重工工業の採用試験で本校生が内定者24名中、総合成績一位になりました。おそらく新入社員代表挨拶を依頼されることでしょう。今年も三年生担任が暗くなるまで面接指導をしてくれ、手中にした内定です。家族の応援、卒業生の活躍が支えてくれているから実現した合格である事を忘れないで、常に感謝の気持ちを持って巣立ってほしいものです。

本校を頼っていただける企業があることはありがたいことです。厳選採用が浸透し、会社に必要な人物のみの採用が顕著に現れています。明るく、大きな声で自分の考えを話せる生徒が、企業担当者から評価が高いようです。

一・二年生はそんな現況を考え、早めに自分の方向を絞り込み準備しましょう。担任の先生や進路指導の先生方は「生徒一人一人の進路設計への援助」をしてくれます。何に価値をおいて、将来どんな職業を選ぶか、そのためには、どの学校でどんな学問を学べばいいかなどを保護者と一緒にじっくり考えましょう。

十一月下旬にこの協力いただきましたアンケートの集計結果をご報告いたします。回答数は五八九名で回収率九八・三％（昨年度九九・五％）でした。紙面の都合で質問項目はその意図が失われる程度に短くしてあります。グラフ内の数値は質問項目ごとに全体を一〇〇とした場合の

割合（％）です。

評価Ａと評価Ｂの合計が全体の八三・一％（昨年度は八二・六％）を占め、全体としては評価の値が昨年度より向上しております。

アンケート結果とお寄せいただきましたご意見につきましては、今後の学校運営改善のための資料として活用させていただきます。また、一月開催の学校評議員による学校関係者評価でアンケート結果を報告し評

価をいただくことになっております。その結果も踏まえ、よりよい学校づくりのために努力をしていきたいと考えております。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。なお、学校評価アンケートの集計結果についての詳細は、二月中にホームページに掲載する予定です。
 保護者の皆様、ご協力ありがとうございます。

	A	B	C	D	
	29	62			8
10		53	31		6
	37	48			14
	22	66			12
	21	57		21	
	51	44			5
	44	49			7
	33	54		11	2
	53	44			3
14		36	37		13
5	21	53		21	
	25	56			2
14		54		28	5
	19	52		27	3
	22	53		20	5
	27	66			6
	33	59			7
	36	58			5
	41	53			6
	55	39			6

A	B	C	D
38		55	6
30		56	13
59		36	4
44		49	6
42		41	13
57		40	3
19		29	10
9	28	46	17
40		46	12
19		61	16
41		45	11
40		49	9
40		52	7
41		51	7
41		50	8
62		32	6

全項目とも2年・3年の保護者共通です。